



倉持 健一 議員

古河駅東部土地区画整理地の土壌調査について

問 前回の土壌調査でヒ素が出たところも調査したと思うが、今回は出なかったのか。

答（都市建設部長） 前回と今回の溶出量調査はピンポイントで同じ場所ではなく、若干数値は異なるが、同じように出ている。

「華のあるまち古河」について

問 雑草対策として花壇に砂利

を入れたが、雑草の種はほこりと一緒に飛んでくるため意味がないのではないか。



答（市長） 花壇はボランティア団体が花を植栽していたが、ボランティアの解散等により管理が困難となり、委託業者が行っていた。コスト面等を総合的に判断した結果、植栽を休止せざるを得なくなり、砂利を一時的にまいた。今後緑化推進の観点からも継続的にボランティアを募集し、管理団体が決まり次第、花壇に花を植栽したい。

（仮称）南古河駅設置事業と商店街の活性化

問 境町は4月から、子どもが弁当を無料でもらうことができる。古河市は10月よりテイクアウトの半額補助を行うが、できない南古河駅にお金をかけるより、商店街の活性化が先ではないか。

答（市長） 参考になるものは取り入れ、順次できることから進めていきたい。

答（企画政策部長） 新駅誘致のさまざまな取り組みの中、できることからやるという考えのもと基金の積み立てを行っている。

《その他の質問》

- ・ 花火大会



高橋 秀彰 議員

コロナ禍における避難所運営の在り方について

問 コロナ禍における避難所の運営は、感染症対策物資の確保や高齢者や障がい者に十分配慮し、女性の視点等も生かしながら、ゾーニング（エリア区分）等を踏まえた準備が必要である。今後の複合災害における避難所運営の在り方等について伺う。

答（総務部長兼危機管理監） 各避難所の備品として、非接触型体温計やアルコール消毒液等を

追加した。避難行動要支援者については、名簿を作成し、本人の同意を得て各行政区長、民生委員などの地域支援者に配付し、事前周知している。また、避難所運営のボランティアスタッフとして女性にも参加いただき、女性目線で避難所運営に活躍していただきたいと考えている。今後も検討を重ねながら改善していきたい。



改正社会福祉法について

問 断らない相談支援やアウト

リーチ型の訪問支援等を通して、地域住民の複合、複雑化した支援ニーズに対応するとともに、課題解決を目指すだけでなく、社会とのつながりを取り戻しながら継続して伴走できる体制構築が必要である。本市における包括的支援体制整備に向けた、今後の取り組みについて伺う。

答（市長） 伴走型支援、アウトリーチによる支援について、福祉部の専門職や地域の持つ力等を最大限に活用し、次年度から始まる重点的支援体制整備事業の準備に鋭意努力していきたい。

答（福祉部長） 課題を持つ対象者には伴走型支援が非常に重要であり、市では1月より就労意欲を持たせることを目指す就労準備支援事業が開始予定である。